

様式(7)

報告番号	甲 保 第 18 号 乙 保
論文内容要旨	
氏 名	上田 伊佐子
題 目	がんサバイバーの心理的適応尺度の開発 ー信頼性・妥当性の検討ー
<p><b>【目的】</b> 本研究の目的は、がんサバイバーの心理的適応を測定する尺度を開発し、その信頼性、妥当性を検証することである。</p> <p><b>【方法】</b></p> <p>1. <u>がんサバイバーの心理的適応の構成概念の抽出と質問項目の作成</u> 1989～2009年の欧米と和文献の90文献をRodgers(2000)の手法を用いて概念分析し、得られた属性を尺度の構成概念とし80の質問項目を作成した。10名のがんエキスパートによる内容的妥当性の検討により、74項目のがんサバイバーの心理的適応尺度(The Scale on Psychological Adjustment of Cancer Survivors: PACS)原案を作成した。</p> <p>2. <u>予備調査による原案の修正</u> 2012年7～8月、がんサバイバー35名にPACS原案を用いて調査した。有効回答29 (回収率82.9%) の表面妥当性を確認し、項目分析後、探索的因子分析で内的整合性を確認した。6因子構造46項目が選定され、PACS原案修正版-46とした。</p> <p>3. <u>本調査</u> 2013年7月～12月に、3施設の外来のがんサバイバー301人に、PACS原案修正版-46および属性、外的基準としてHADS, QOL-ACD, MACを調査した。再テストを2週間後に実施した。</p> <p>4. <u>分析方法</u> 欠損値頻度、天井・フロア効果、修正済み項目合計相関、項目間相関分析、G-P分析による項目分析をした。探索的因子分析を行い、Cronbach's <math>\alpha</math>係数を算出した。HADS, QOL-ACD, MACとの相関をみた。多次元尺度法を用いてHADS, QOL-ACD, MACの下位因子との非類似性を検討した。検証的因子分析でモデルを作成し、共分散構造分析による適合度を確認した。</p> <p><b>【結果】</b> 251の回答(回収率83.4%), 有効回答数238(有効回答率97.6%)であった。項目分析と探索的因子分析の結果、最終的に18項目4因子【がんと共に生きる自分を受け入れている】【成長した自分がある】【自分を取り戻している】【うまくやれないでいる】からなるPACSが作成できた。尺度全体のCronbach's <math>\alpha</math>は0.87各下位因子は0.81～0.85であり内的整合性を、再テストから安定性を確認できた。HADS, QOL-ACD, MACとの相関、および構成概念の属性と下位因子構成から妥当性を確認できた。さらにHADS, QOL-ACD, MACの下位因子との非類似性もグラフィカルに検討できた。検証的因子分析における適合性はGFI=0.898, AGFI=0.865, CFI=0.935, RMSEA=0.057であり、構成概念妥当性が確認できた。</p> <p><b>【結論】</b> 今回、がんサバイバーの心理的適応を測定する尺度の開発を試みた結果、18項目【がんと共に生きる自分を受け入れている】【成長した自分がある】【自分を取り戻している】【うまくやれないでいる】の4下位因子からなるPACSが作成された。本尺度が一定の信頼性と妥当性を備えた尺度であると確認されたことから、今後、臨床で活用されるなかで、がんサバイバーの心理的適応を測定する有用な尺度になり得ることが示唆された。</p>	